

研究の背景・目的

本県では、市町や集落等による被害対策の取り組みはあるものの、中山間地域を中心に野生鳥獣による農林作物等への被害は依然として深刻な状況です。浜田市は県内でも有数の西条柿の生産地ですが、クマによる被害が多発しています。そこで、浜田市のカキ園において、地域ぐるみの獣害対策による実践型研究プロジェクトを実施しています。地域住民の意識調査を基に、地域一体となったクマ対策に取り組むための集落での合意形成や対策を模索しながら、その手法を確立します。

研究方法

浜田市の田橋町（3集落、72戸）、横山町（3集落、53戸）において、地域が一体となった獣害対策の取り組みの効果を検証します。集落の意識調査を基に、集落点検やフィードバックミーティングによる効果的な合意形成の手法を検討します。また、モデルカキ園において、電気柵（ワイヤーメッシュ+電線）の侵入防止効果と維持管理方法について検討します。

研究状況

- ①県内の集落調査（3350集落）によって、とくに鳥獣被害に困っている実態が明らかになりました。なかでもイノシシの被害がある集落は約80%と多いことが分かりました（図1）。
- ②2013年8月に横山西集落にあるカキ園（面積：20a、本数：35本）にクマ用の電気柵（400m）を設置しました。既存の高さ90cmの忍び返し加工されたワイヤーメッシュ柵の上部10cmに1本の電線を設置し、碍子を固定する支柱には22mmまたは25mmの直管パイプを使用しました。2013年は、クマが電線に触れる前にワイヤーメッシュに手をかけて折り曲げて侵入したので、2014年6月にこれを折り曲げられないように上部を直管パイプで補強しました。しかし、9～12月に電気柵内へ10回のクマの侵入を認めました。そのため、更なる改良を進めています。
- ③モデル地域では、広域防護柵（ワイヤーメッシュ柵）を設置後は、イノシシの被害はほとんど発生しませんでした。毎年実施している広域防護柵の点検と集落点検でも、イノシシの痕跡は確認できませんでした（写真1）。そのため、集落ぐるみでの維持管理が効果を継続するには重要であることが明らかとなりました。

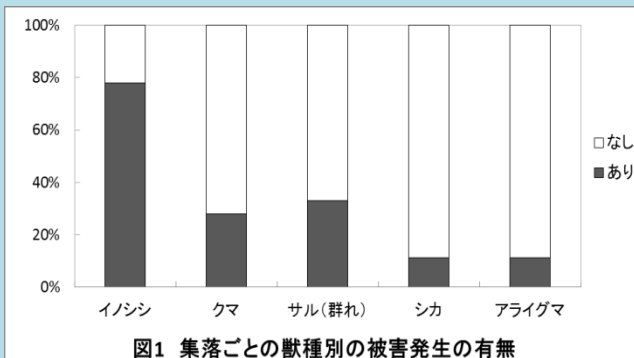


写真1 広域防護柵の点検の様子

研究成果の活用・今後の研究計画

モデル地域において、地域一体となった獣害対策による被害の軽減効果を実証し、合意形成の手法を明らかにできれば、県内の各地域へ普及させることができます。

そして、多くの地域において獣害を許容範囲に抑えることによって、農業振興と共に地域の維持と活性化につながります。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 澤田 誠吾

問い合わせ先 : 0854-76-3818 (直通)

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp (代表)

試験研究課題名 : クマをはじめとする野生動物との軋轢軽減へ向けての地域一体となった取り組みの効果調査 (研究期間: H24年7月～H28年7月)